

【様式①】令和2年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立長森東小学校

校長名 永井浩司



市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	校長、教頭、各主任のリーダーシップのもと、全職員が学校経営に参画すると共に、学年主任等が指導性を発揮し組織的な対応の充実を図る。  7年目を迎えるコミュニティ・スクールの組織や取組を積極的に活用し、教育活動の多様化と充実を図る。	A	・コロナ禍における対応や指導事項、行事内容の変更等、各主任からの提案に基づいて共通理解を図り指導に当たることができた。 ・学年主任を中心に、コロナ禍の新しい生活様式を意識しながら、願いや見通しをもった学年経営を進めることができた。 ・例年のような取組はできなかったが、登下校の見守りや学習支援等、コロナ禍でもできる範囲で組織を活用し、児童の活動を充実させることができた。	・全職員が学校経営に参画できていると思う。前例にとらわれずに若い先生方の新鮮なアイデアを取り入れて、教育活動を多面的に見直していった。 ・コロナ対応で大変な年だったが、学校と地域コミュニティ双方が連携に注力されており、引き続き取り組んでいきたい。 ・通学路での見守りが難しい下校時の児童の姿が気になる。こども110番の家の周知を進めていきたい。	・それぞれのキャリアステージに応じた課題をもち資質向上に努めるとともに、気軽に自分の意見が言える職員の間人間関係を構築する。 ・学校医に積極的に指導を仰ぎ、コロナ禍での安全な学校生活について全職員で試行錯誤していく。  ・下校時の交通指導は必須課題である。地域にも協力を求めて、地域ぐるみで子供たちの安全な登下校を見守る体制づくりに取り組みたい。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	履修状況の把握に努め、各学年の未履修(前年度分)の内容と本年度の指導内容を踏まえた教育課程を編成し、柔軟な対応を図る。  積極的にICT機器を活用し、授業改善や指導方法の充実に努めるとともに、教育活動の多様化を図る。	A	・前年度の未履修はなかったが、年度末に習熟予定だった内容を休校中の課題に含めたり、休校後の学習に前年度の復習を取り入れたりして柔軟に対応できた。 ・授業の中で、デジタル教科書や書画カメラを積極的に活用し児童の学習の充実を図ることができた。 ・岐阜市よりタブレット端末が1人1台貸与され、オンライン学習の実現に向けて、各教育活動の中で効果的に活用することができた。	・コロナ禍でできることを模索しながら、児童の教育活動を充実させたことは、価値あることだと思う。  ・ICT機器の活用を校内だけでなく地域間にも拡大して活用できないか。過渡にならない程度の位置情報の提供で児童の見守りを充実させることはできないか。	・新学習指導要領も全面実施となり、評価の内容も含めて児童の実態を踏まえた研修を進める。  ・教育活動を充実させるためのタブレット端末の活用について研修を行い、全職員が必要な技能の習得に努める。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	挨拶、掃除、時間行動、思いやりを小中一貫の重点項目として、基本的な生活習慣の定着を図るとともに、時と場に合わせて家族や地域の方に挨拶ができるようにする。  幼保との実践交流や情報交換の場を基に共通理解を進め、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムなど双方向で充実を図る。	B	・重点項目に沿った各委員会の活動を通して、どの学年の児童も重点を意識して生活することができた。 ・計画委員会を中心に「先手あいさつ」や「山びこあいさつ」に取り組み、気持ちのよいあいさつができる児童は増えてきているが、学校を離れた場所でのあいさつの姿にはまだ課題が残る。 ・年度初めに幼保小間で連絡会は行ったものの、新型コロナウイルス感染症予防から例年行っている児童の交流(1,5年)はすべて実施することができなかった。	・様々な合い言葉で取り組んだことはよいと思うが、あいさつをする児童が限定的。あいさつをする意義を児童に理解させなければ、進んであいさつができる児童は増えていかないのではないかと。 ・幼保小中連携や小中一貫の考え方に加え「岐阜市立という強み」を生かして幼小中まで一貫通貫の教育を構築することにより「岐阜市で育ったら」と期待されるような形ができた魅力的である。	・あいさつに込められた意味を児童に分かるように伝え、児童自身が必要性を感じてあいさつをしていけるように働きかけていく。 ・引き続き児童会活動であいさつに取り組み、児童の主体的な取組にしていきたい。  ・子供たちの交流だけでなく、幼保小中一貫の教育が構築できるように、中学校区の職員間の交流の場を大切にしていこう。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	ユニバーサルデザインを意識し、誰もが安らぎと明るさを感じる教育環境の整備及び充実に努める。  教材購入や会計監査における財務管理の強化を図り、学校とPTAとの協働による運用効果を高める。	A	・児童が安心して落ち着いて学習に取り組むことができるように、全校統一してすっきりした教室環境整備に取り組んだ。 ・今年度から2学年のPTA学年委員長に学年の教材費や積立費の会計監査を依頼し、正確な財務管理に努めることができた。	・安らぎと明るさを感じる校内環境には共感できる。 ・教室だけでなく特別教室や廊下等も整理整頓ができておりよい環境だと思う。  ・正確な財務管理に関しては、今後も引き続き取り組んでいきたい。	・教室が安心できる居場所となるように、掲示物等の整備だけでなく、心情的にも安心できるように人権研修を進める。 ・大規模修繕については継続して市に要望し、校内で対応できるものについては早急に対応していく。  ・今年度の会計監査の方法を継続し、引き続き正確な財務管理を進める。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	年間を見通した新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を図るとともに、熱中症や落雷等この地域で考えられる災害等の危機管理の充実を図る。  いじめ防止・対策に向けて、いじめ対策監やスクールカウンセラーと連携し、全職員が協働し、組織で対応を図る。	A	・健康チェックカードによる体調把握や活動場所の消毒に継続して取り組んだ。 ・手洗い、手指消毒の励行やマスク着用、換気の徹底等の予防対策に全校で取り組んだ。 ・熱中症予防対策として、熱中症指数計を活用したりミストシャワーを設置したりして環境整備に取り組んだ。 ・気象情報に留意し、児童の安全を第一に考えて保護者に情報を提供し対応することができた。 ・毎月3日の「いじめを見逃さない日」の取組等、全校体制でいじめ防止に取り組み、いじめ事案が発生したときには、校長の指導のもと、いじめ対策監を中心に組織的に対応し見届けができた。	・コロナ禍により、非日常が日常になりつつある今、コロナ対策の時間が増え、先生方の努力が伺われる。 ・風邪等による体調不良が少なかった。感染症対策で得た教訓を次年度以降にも生かしていけるとよい。  ・いじめはいつ起きるか分からないので、常に気を配る必要がある。保護者の協力を得て早期発見に取り組んでほしい。 ・相手の気持ちを考える力が足りないといじめは起きる。日常的に、具体的な場面を取り上げて話し合う活動を取り入れてはどうか。	・常に最悪の状況を想定し、それを回避するために児童の安全を第一に考えた危機管理に取り組む。  ・日頃から児童一人一人に寄り添い、信頼関係の構築に努力していく。 ・いじめ事案については、校長の指導のもと、いじめ対策監を中心に全職員で組織的に対応し、いじめのない学校づくりに引き続き取り組んでいく。

HPアドレス: <http://cms.gifu-gif.ed.jp/nagamorihigashi-e/>